

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法研究法 I						
担当講師	及川真人						
実務経験の概要	保健医療学博士，理学療法士，医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

研究法 I においては、研究の意義および必要性、基本的なデータの取り扱い方を学習していく。また、基本データをどのような統計解析手法を適用させ、どのように解釈するかについて基本的な知識を身につけることを目標とする。

上記を学習し、理学療法研究の重要性を理解したうえで、模擬的な研究計画書の作成を経験していき、研究手法の理解を深めていく。

学修到達目標

1. 理学療法における研究の位置づけを説明できる。
2. 理学療法研究の流れを説明できる。
3. 模擬的に研究計画書を作成し、その内容を発表できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|--------------------------------|
| 第1回 | 研究とは？ |
| 第2回 | 研究デザインの基礎知識① |
| 第3回 | 研究デザインの基礎知識② |
| 第4回 | 文献検索方法 |
| 第5回 | 研究計画と倫理的配慮およびバイアスの考慮 |
| 第6回 | データの尺度・特性値・グラフ |
| 第7回 | 推定と検定の基礎 |
| 第8回 | リフレクション(研究の基礎についての振り返り) |
| 第9回 | 統計解析の基礎知識(差の検定：2群) |
| 第10回 | 統計解析の基礎知識(差の検定：3群以上) |
| 第11回 | 統計解析の基礎知識(相関) |
| 第12回 | 統計解析の基礎知識(回帰分析) |
| 第13回 | 統計解析の基礎知識(分割表) |
| 第14回 | 統計解析の基礎知識(その他：信頼性、多重ロジスティックなど) |
| 第15回 | リフレクション(統計解析の振り返り) |
| 第16回 | 研究計画書作成① |
| 第17回 | 研究計画書作成② |

- 第18回 研究計画書作成③
- 第19回 研究計画書作成④
- 第20回 研究計画書作成⑤
- 第21回 研究計画書作成⑥
- 第22回 研究計画書作成⑦報告会
- 第23回 研究計画書作成⑧報告会

評価方法

課題レポート(20%) 研究計画書(50%) 報告会での発表(30%)

教科書

15レクチャーシリーズ リハビリテーション統計学(中山書店)

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義において、聴き慣れない統計に関する用語が出てきます。演習を通して慣れていきながら、最終的に模擬的な研究計画書を作成し、発表する経験につなげていきます。能動的に学習していきましょう。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅱ						
担当講師	及川真人 及川龍彦 菊池賢汰						
実務経験の概要	及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する. 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する. 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する.						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

画像情報やラボデータから対象者の状態を推測する流れを学習します。

学修到達目標

1. 骨関節系理学療法における医学的情報の概要および活用方法を説明できる。
2. 各種脳画像の特徴と病変の捉え方を理解し、基本的な脳画像の読影が可能となる。
3. 内部障害系理学療法における医学情報の活用法を理解する。

授 業 計 画

第1回	CT・MRI・MRAの特徴	及川真人
第2回	脳神経の機能と構造	及川真人
第3回	脳画像の読影①	及川真人
第4回	脳画像の読影②	及川真人
第5回	脳画像の読影③	及川真人
第6回	内部障害系疾患における情報の位置付け	及川龍彦
第7回	内部障害系理学療法における血液検査データの取り扱い	及川龍彦
第8回	内部障害系理学療法における画像データの取り扱い	及川龍彦
第9回	内部障害系理学療法における心電図の取り扱い	及川龍彦
第10回	内部障害系疾患におけるさまざまなデータの取り扱い	及川龍彦
第11回	骨関節疾患における画像評価の概要	菊池賢汰
第12回	骨関節疾患における正常画像の診かた①(上肢)	菊池賢汰
第13回	骨関節疾患における正常画像の診かた②(下肢・体幹)	菊池賢汰
第14回	骨関節疾患における異常画像の診かた	菊池賢汰
第15回	骨関節疾患における主要な検体検査情報	菊池賢汰

評価方法

筆記試験(及川真人1/3, 及川龍彦1/3, 菊池1/3)

教科書

神経筋障害理学療法テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

運動器障害理学療法学テキスト(南江堂) 神経筋障害理学療法学テキスト(南江堂) 内部障害理学療法学テキス

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

脳・神経についての復習を十分に行ってください。(及川真人)
内部障害分野では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。(及川龍彦)
骨関節分野では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に関わります。十分に復習した上で臨んでください。(菊池)

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	理学療法評価学Ⅲ						
担当講師	及川真人 及川龍彦 菊池賢汰						
実務経験の概要	及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する. 及川龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する. 菊池賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する.						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

機器を用いた理学療法評価の種類や方法を理解し、その活用方法について学修します。
 内部障害系理学療法における機器を用いた理学療法評価の種類や方法を理解し、その活用方法について学習します。

学修到達目標

1. 筋力検査の目的と検査方法を理解し、基本的評価が可能となる。
2. 骨関節系理学療法における評価機器を用いた情報の活用方法を説明できる。
3. 内部障害系理学療法における機器を用いた情報の活用方法を理解する。

授業計画

第1回	筋と筋収縮	及川真人
第2回	筋力増強練習と筋力評価	及川真人
第3回	筋力評価演習①	及川真人
第4回	筋力評価演習②	及川真人
第5回	筋力評価演習③	及川真人
第6回	内部障害系理学療法に用いられる機器とその活用	及川龍彦
第7回	スパイロメトリー	及川龍彦
第8回	心肺運動負荷試験	及川龍彦
第9回	内部障害系理学療法で活用される簡便機器	及川龍彦
第10回	内部障害系理学療法における機器の活用	及川龍彦
第11回	骨関節系理学療法で用いられる評価機器①	菊池賢汰
第12回	骨関節系理学療法で用いられる評価機器②	菊池賢汰
第13回	骨関節系理学療法における動作解析装置の活用	菊池賢汰
第14回	骨関節系理学療法における筋電図の活用	菊池賢汰
第15回	骨関節系理学療法における床反力計の活用	菊池賢汰

評価方法

筆記試験（及川真人1/3、及川龍彦1/3、菊池1/3）

教科書

プリント教材 理学療法評価学（金原出版株式会社）

参考図書・文献

運動器障害理学療法学テキスト（南江堂） 内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学の知識が必要となりますので、十分な復習を行ってください。（及川真人）
 内部障害分野では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。（及川龍彦）
 骨関節分野では解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に関わります。十分に復習した上で臨んでく

科目名	理学療法評価学Ⅳ						
担当講師	野中一成						
実務経験の概要	理学療法士，医療施設・介護保険施設にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	2	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

理学療法における質的評価の位置づけを理解し，基本的な評価技術を習得します。

学修到達目標

1. 姿勢・動作・歩行分析について理解し，実践できる。
2. 姿勢・動作から対象者の全体像を把握できる。
3. 疼痛に対する理解・評価方法を理解し実践できる。

授業計画

- | | |
|------|--------------------|
| 第1回 | 姿勢・動作分析に必要な基礎知識 |
| 第2回 | 姿勢・動作分析の目的・方法・ポイント |
| 第3回 | 姿勢観察の実践① |
| 第4回 | 姿勢観察の実践② |
| 第5回 | 姿勢観察の実践③ |
| 第6回 | 姿勢観察の実践④ |
| 第7回 | 姿勢分析の実践（まとめ） |
| 第8回 | 動作観察・分析の方法とポイント |
| 第9回 | 動作観察の実践① |
| 第10回 | 動作観察の実践② |
| 第11回 | 動作観察の実践③ |
| 第12回 | 動作観察の実践④ |
| 第13回 | 動作分析の実践（まとめ） |
| 第14回 | 歩行分析の方法とポイント |
| 第15回 | 歩行観察の実践 |
| 第16回 | 歩行分析の実践 |
| 第17回 | 動作分析の実践（まとめ） |
| 第18回 | 疼痛評価に必要な基礎知識 |
| 第19回 | 疼痛評価の目的と方法 |

- 第20回 疼痛評価の実践
- 第21回 統合と解釈①
- 第22回 統合と解釈②（事例検討）
- 第23回 統合と解釈③（事例検討）

評価方法

筆記試験（80％） レポート（20％）

教科書

プリント教材

参考図書・文献

動作分析 観察による歩行 慢性疼痛診療ガイドライン 疼痛リハビリテーション

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

動作観察や分析を行う上で解剖学や運動学の基礎知識の復習を十分に行ってください。
また、疼痛に関しても疼痛発現の機序など生理学などの基礎知識が必須ですので、十分に復習を行ってください。

科目名	理学療法評価学Ⅴ						
担当講師	長野由紀江 及川真人						
実務経験の概要	長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する. 及川真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する.						
履修年次	2	単位数	2	時間数	60	開講時期	通年
授業形態	講義/演習/オムニバス						

授業概要

理学療法における徒手検査測定法の基礎を理解し、その技術を習得します。後半は神経系理学療法に必要な評価項目について学び、その技術を習得していきます。

学修到達目標

1. 関節可動域測定の基本的測定を理解し、実践できる。
2. 徒手筋力検査法の基本的測定を理解し、実践できる。
3. 整形外科的検査の方法を理解し、実践できる。
4. 協調運動機能検査の理論を理解し、方法を身につける。
5. 筋緊張検査の理論を理解し、方法を身につける。
6. 腱反射および病的反射検査の理論を理解し、方法を見つける。
7. バランス検査の理論を理解し、方法を見つける。
8. 片麻痺検査および脳神経検査を理解し、方法を身につける。
9. パフォーマンステストを理解し、方法を身につける。

授業計画

第1回	関節可動域測定の意義・目的と可動域制限因子について	長野由紀江
第2回	関節可動域測定：肩甲帯・肩関節	長野由紀江
第3回	関節可動域測定：肘関節・前腕・手関節	長野由紀江
第4回	関節可動域測定：股関節・膝関節	長野由紀江
第5回	関節可動域測定：足関節・足部	長野由紀江
第6回	関節可動域測定：頸部・胸腰部	長野由紀江
第7回	関節可動域測定：手指・足趾	長野由紀江
第8回	徒手筋力検査の意義・目的と判定基準について	長野由紀江
第9回	徒手筋力検査：肩甲帯・肩関節のテスト	長野由紀江
第10回	徒手筋力検査：肘関節・前腕・手関節のテスト	長野由紀江
第11回	徒手筋力検査：股関節・膝関節・足関節のテスト	長野由紀江
第12回	徒手筋力検査：頸部・体幹筋のテスト	長野由紀江
第13回	徒手筋力検査：手指・足趾のテスト	長野由紀江
第14回	整形外科的検査①	長野由紀江
第15回	整形外科的検査②	長野由紀江

第16回	神経系理学療法評価の概要	及川真人
第17回	片麻痺検査	及川真人
第18回	感覚検査①	及川真人
第19回	感覚検査②	及川真人
第20回	腱反射検査	及川真人
第21回	病的反射検査	及川真人
第22回	筋緊張検査	及川真人
第23回	姿勢・バランス評価①	及川真人
第24回	姿勢・バランス評価②	及川真人
第25回	パフォーマンステスト(10m歩行、TUG、6MWT)①	及川真人
第26回	パフォーマンステスト(10m歩行、TUG、6MWT)②	及川真人
第27回	協調性運動機能検査①	及川真人
第28回	協調性運動機能検査②	及川真人
第29回	脳神経検査①	及川真人
第30回	脳神経検査②	及川真人

評価方法

筆記試験（80％） 実技試験（20％）

教科書

リハビリテーション基礎評価学（羊土社） 新・徒手筋力検査法（協同医書出版） プリント教材

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

臨床で、最も多く利用される検査です。練習を重ね技術して身につけて下さい。(長野)
理学療法評価学を学ぶためには解剖学・生理学・運動学の知識が必要となりますので、十分な復習を行って下さい。(及川)

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	骨関節系理学療法学 I						
担当講師	菊池賢汰						
実務経験の概要	保健学博士，理学療法士，医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

骨関節系理学療法の基礎的知識と理学療法における考え方を学修します。

学修到達目標

1. 骨関節系理学療法の必要性を説明できる。
2. 骨関節系理学療法の流れを説明できる。
3. 骨関節系理学療法における基礎的知識を習得する。

授 業 計 画

- 第1回 骨関節系理学療法の概要
- 第2回 運動器障害における理学療法の考え方
- 第3回 運動器障害における理学療法の流れ
- 第4回 組織再生と修復①
- 第5回 組織再生と修復②
- 第6回 骨折と脱臼①
- 第7回 骨折と脱臼②
- 第8回 捻挫と肉離れ①
- 第9回 捻挫と肉離れ②
- 第10回 末梢神経損傷①
- 第11回 末梢神経損傷②
- 第12回 変形性関節症①
- 第13回 変形性関節症②
- 第14回 運動器障害における理学療法：演習①
- 第15回 運動器障害における理学療法：演習②

評価方法

筆記試験

教科書

プリント配布 運動器障害理学療法学テキスト改訂第3版（南江堂）

参考図書・文献

筋骨格系のキネシオロジー原著第3版（医歯薬出版株式会社）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖・生理・運動学の基礎的知識が講義内容の理解に大きく関わります。十分に復習した上で講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	中枢神経系理学療法学 I						
担当講師	及川 真人						
実務経験の概要	保健医療学博士，理学療法士，医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

中枢神経系理学療法学 I においては、脳の機能と運動障害の関係について整理し、片麻痺の原因となる脳血管障害をはじめとした脳損傷について理解する。また、片麻痺で生じる機能障害や活動・参加への制限の評価の必要性を理解し、課題特異的なトレーニングのあり方や理学療法の一連の流れについて学ぶことを目標とする。

学修到達目標

- 1.中枢神経系理学療法学の必要性を説明できる。
- 2.中枢神経系理学療法の流れを説明できる。
- 3.中枢神経系理学療法学の基礎知識を習得する。

授 業 計 画

- 第1回 イントロダクション ～脳血管疾患の入院から退院まで～
- 第2回 脳血管疾患の概要
- 第3回 脳血管疾患に対する医学的管理
- 第4回 脳血管疾患によって生じる障害
- 第5回 脳血管疾患の理学療法①(急性期)
- 第6回 脳血管疾患の理学療法②(回復期)
- 第7回 脳血管疾患の理学療法③(生活期)
- 第8回 脳血管疾患に対する基本動作への介入(寝返り・起き上がり・座位)
- 第9回 脳血管疾患に対する基本動作への介入(立ち上がり・立位・移乗)
- 第10回 脳血管疾患に対する基本動作への介入(歩行)
- 第11回 脳血管疾患に対する統合と解釈
- 第12回 パーキンソン病 その他神経疾患
- 第13回 脊髄損傷の概要と病態
- 第14回 脊髄損傷の評価と理学療法
- 第15回 中枢神経理学療法学 I 総括・まとめ

評価方法

筆記試験

教科書

神経筋障害理学療法学テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

リハビリテーション基礎評価学 (羊土社)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

解剖・生理・運動学の基礎知識についてしっかり復習し、講義に臨んでください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	内部障害系理学療法 I						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

内部障害系理学療法の必要性和理学療法における位置づけを学修します。

学修到達目標

1. 内部障害系理学療法の必要性を理解する。
2. 内部障害系理学療法の流れを理解する。
3. 内部障害系理学療法実施に必要な知識を羅列できる。

授業計画

- 第1回 内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識①
- 第2回 内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識②
- 第3回 内部障害系理学療法に必要な解剖学・生理学・運動学的知識③
- 第4回 内部障害系理学療法に用いられる用語とその意味
- 第5回 呼吸器疾患の病態
- 第6回 呼吸器疾患に対する理学療法の考え方
- 第7回 呼吸器疾患に対する理学療法の流れ
- 第8回 心大血管疾患の病態
- 第9回 心大血管疾患に対する理学療法の考え方
- 第10回 心大血管疾患に対する理学療法の流れ
- 第11回 代謝系疾患の病態
- 第12回 代謝系疾患に対する理学療法の考え方
- 第13回 代謝系疾患に対する理学療法の流れ
- 第14回 慢性腎臓病と理学療法の考え方
- 第15回 心肺腎の関連

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材・内部障害理学療法学テキスト（南江堂）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

本講義では生理学的基礎が講義理解に大きく関わりますので、生理学の復習を十分に行ってください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	物理療法学 I						
担当講師	及川龍彦						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

理学療法における物理療法の位置づけと治療の背景に存在する生理学的基礎を学修します。

学修到達目標

1. 理学療法における物理療法の位置づけを理解出来る。
2. 物理療法の種類を羅列できる。
3. 物理療法の生理学的・物理学作用を理解出来る。

授業計画

- 第1回 物理療法概論①
- 第2回 物理療法概論②
- 第3回 物理療法の歴史①
- 第4回 物理療法の歴史②
- 第5回 温熱療法の生理学的作用①
- 第6回 温熱療法の生理学的作用②
- 第7回 寒冷療法の生理学的作用①
- 第8回 寒冷療法の生理学的作用②
- 第9回 超音波療法の生理学的作用
- 第10回 水治療法の生理学的・物理学的作用①
- 第11回 水治療法の生理学的・物理学的作用②
- 第12回 電気療法の生理学的作用①
- 第13回 電気療法の生理学的作用②
- 第14回 光線療法の生理学的作用
- 第15回 牽引療法の物理学的作用

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材・物理療法学（金原出版）

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

物理療法は操作マニュアルよりも、改善に至る生理学的な根拠の理解が必要になりますのでしっかり学習してください。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	装具学						
担当講師	及川真人						
実務経験の概要	保健医療学博士，理学療法士，医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

装具学においては、中枢・末梢神経疾患、骨関節疾患、神経筋疾患などにより運動機能障害を呈した者に対して、適切な装具療法を提供できるよう、装具の基本構造と機能を理解し、疾患や障害に適した装具の選択や装具療法を知る機会としていく。

学修到達目標

1. 装具の基本的な構造や機能を理解する。
2. 疾患や障害に適した装具が選択できる。
3. 装具療法について理解する。

授業計画

- 第1回 装具学総論
- 第2回 短下肢装具
- 第3回 長下肢装具
- 第4回 靴型装具
- 第5回 下肢装具のチェックアウト
- 第6回 体幹装具
- 第7回 上肢装具
- 第8回 車椅子・歩行補助具
- 第9回 整形外科疾患に対する装具療法
- 第10回 リウマチに対する装具療法
- 第11回 脊髄損傷・小児疾患に対する装具療法
- 第12回 脳血管疾患に対する装具療法①
- 第13回 脳血管疾患に対する装具療法②
- 第14回 装具を理解するための運動学
- 第15回 装具学総括・まとめ

評価方法

筆記試験

教科書

義肢装具学テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

装具学を学ぶにあたり、解剖学・運動学各疾患に対する知識が必要となります。各科目の復習を行い、講義に臨んでください。

科目名	福祉用具学						
担当講師	竹田敦子						
実務経験の概要	作業療法士、医療施設・介護保険関連施設にて実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

福祉用具の概念や支援方法・関連制度などについて学修を行います。また、対象者の身体状況や環境の評価に基づいた福祉用具の適応について学修を行います。

学修到達目標

1. 福祉用具の役割や重要性・関連制度を理解することができる。
2. 身体状況や生活環境に応じた福祉用具の選定や支援・活用方法が理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 福祉用具関連の制度
- 第2回 機能障害別福祉用具①(筋力低下、随意運動障害)
- 第3回 機能障害別福祉用具②(筋力低下、随意運動障害)
- 第4回 機能障害別福祉用具③(関節可動域障害)
- 第5回 機能障害別福祉用具④(協調性障害他)
- 第6回 機能障害別福祉用具⑤(座位保持障害等)
- 第7回 福祉用具体験①
- 第8回 福祉用具体験②

評価方法

筆記試験

教科書

プリント教材

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

特になし

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	生活活動学II						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護保険関連施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義/演習						

授業概要

1. 対象者の生活活動の状況を把握するための生活活動の評価について学修します。
2. 対象者の生活活動における制限を軽減するための具体的介入について学修します。

学修到達目標

1. 生活活動の状況を把握するための評価を挙げ、意義・目的・方法などを述べるができる。
2. 生活活動における評価について、演習を通して理解し、実践することができる。
3. 生活活動の制限に対し、介入する目的と方法を説明することができる。

授業計画

- | | | |
|------|-------------------|--------------|
| 第1回 | ADLの概念・ADLと障害 | |
| 第2回 | QOLの概念と評価 1 | |
| 第3回 | QOLの概念と評価 2 | |
| 第4回 | 日常生活活動の評価概要 1 | |
| 第5回 | 日常生活活動の評価概要 2 | |
| 第6回 | 日常生活活動における評価の実践 1 | |
| 第7回 | 日常生活活動における評価の実践 2 | |
| 第8回 | 日常生活活動における評価の実践 3 | |
| 第9回 | 日常生活活動における評価の実践 4 | |
| 第10回 | 日常生活活動自立にむけての介入 | 疾患別対象者への介入 1 |
| 第11回 | 日常生活活動自立に向けての介入 | 疾患別対象者への介入 2 |
| 第12回 | 日常生活活動自立に向けての介入 | 疾患別対象者への介入 3 |
| 第13回 | 日常生活活動自立に向けての介入 | 疾患別対象者への介入 4 |
| 第14回 | 日常生活活動自立に向けての介入 | 疾患別対象者環境への介入 |
| 第15回 | まとめ | |

評価方法

筆記試験

教科書

日常生活活動学テキスト(南江堂) プリント教材

参考図書・文献

標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学(医学書院) 理学療法作業療法テキストADL実習(中山書店)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性あります。

科目名	対象者支援学 I						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士、医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義/演習						

授業概要

対象者の自立生活支援をするために必要な生活環境の評価と課題抽出、福祉用具や住宅改修の検討、対象者や家族教育など、対象者支援の基本を理解できるよう学修します。

学修到達目標

1. 対象者支援における理学療法士の役割について理解できる。
2. 対象者がおかれる環境に則したアプローチや補装具の活用、機器の導入、住環境整備の検討など対象者支援の基本を理解できる。

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 第1回 | 対象者の自立生活支援について |
| 第2回 | 障害者総合支援法について |
| 第3回 | 対象者をとりまく環境と身体機能の評価ーリハビリテーション総合実施計画書 |
| 第4回 | 姿勢と動作 |
| 第5回 | ポジショニング①臥位 |
| 第6回 | ポジショニング②ベット上座位・車椅子座位 |
| 第7回 | 介助法①動作の介助（椅子からの立ち上がり・転倒からの立ち上がり） |
| 第8回 | 介助法②歩行介助 |
| 第9回 | 介護予防と健康増進における理学療法士の役割 |
| 第10回 | 福祉用具の提供について |
| 第11回 | 住宅改修の施行について |
| 第12回 | 聴覚障害・視覚障害の対象者の支援事例 |
| 第13回 | 対象者・家族に対する指導の必要性 |
| 第14回 | 対象者・家族に対する指導の事例 |
| 第15回 | まとめ |

評価方法

筆記試験

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	地域理学療法Ⅱ						
担当講師	及川真人						
実務経験の概要	保健医療学博士，理学療法士，医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	30	開講時期	通年
授業形態	講義/演習						

授業概要

地域理学療法学においては、地域リハビリテーションおよび地域理学療法の概念や関わる視点を学びながら、地域に必要な各種制度を学習していく。また、主として医療機関退院後、地域で生活する人々の生活像やそれに対する理学療法の実際について学びを深めていく。後半は、健康増進や介護予防的視点からの理学療法介入についても学習していく。

学修到達目標

1. 地域リハビリテーション，地域理学療法の概念や定義、対象を理解できる。
2. 地域包括ケアシステムの概念を理解する。
3. 地域における理学療法士の役割や関連制度を理解する。
4. 地域における具体的な理学療法サービスを理解する。
5. 地域における介護予防に関する知識を習得する。

授業計画

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1回 | 地域リハビリテーションと地域理学療法の概念 |
| 第2回 | 地域理学療法の視点 |
| 第3回 | 地域理学療法の対象と支援方法 |
| 第4回 | 地域理学療法と制度 |
| 第5回 | サービス別にみた地域理学療法(訪問) |
| 第6回 | サービス別にみた地域理学療法(通所) |
| 第7回 | サービス別にみた地域理学療法(入所) |
| 第8回 | サービス別にみた地域理学療法(病院における退院支援) |
| 第9回 | 地域における理学療法介入の視点① |
| 第10回 | 地域における理学療法介入の視点② |
| 第11回 | リフレクション |
| 第12回 | サルコペニア・ロコモティブシンドローム |
| 第13回 | フレイル・介護予防 |
| 第14回 | 転倒予防 |
| 第15回 | 認知症・軽度認知症 |

評価方法

筆記試験(90%) 提出物(10%)

教科書

15レクチャーシリーズ 地域理学療法学(中山書店) プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

予習課題を出す場合があります。その際はしっかりと予習を行い、講義前に提出をお願いします。また、講義後も教科書やプリント教材を通して十分な復習を行って下さい。

【専門分野】

【理学療法学科】

科目名	地域理学療法導入実習						
担当講師	佐藤浩哉 菊池賢汰 長野由紀江 及川龍彦 中嶋奈津子 及川真人						
実務経験の概要	佐藤 浩哉 : 医学博士, 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 菊池 賢汰 : 保健学博士, 理学療法士, 医療施設・スポーツ施設において実務経験を有する。 長野由紀江 : 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。 及川 龍彦 : 理学療法士, 医療施設・介護老人保健施設において実務経験を有する。 中嶋奈津子 : 理学療法士, 医療施設・介護保険施設において実務経験を有する。 及川 真人 : 保健医療学博士, 理学療法士, 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	2	単位数	1	時間数	45	開講時期	後期
授業形態	実習						

授業概要

通所・訪問リハビリテーションサービス提供事業所での実習を通じ、地域に在住する対象者の障害像と実生活の関連に関する理解を深めます。

学修到達目標

1. 実生活を営む対象者の生活状況と障害の関連を理解する。
2. 対象者が持つ問題それぞれのつながりを理解する。
3. 通所リハビリテーションサービスの業務と役割を理解する。

授 業 計 画

実習期間	令和8年度10月14日（水）から10月20日（火） 5日間
セミナー期間	令和8年度10月23日（金）から10月27日（火）
実習施設	通所リハビリテーション施設
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者および指導者・職員と交流を図る。 2. 対象者の生活状況について聴き取りや観察をすることで、生活の課題と身体機能に考察する。 3. 臨床見学や業務を手伝うことによって、通所施設における理学療法士の業務と役割を考察する。 4. 社会人としての基本的態度を理解し、実践する。
実習後セミナー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通所・訪問リハビリテーション施設における理学療法士の仕事・役割などグループ在宅支援サービスにおける理学療法士の役割の理解を深める。 2. 実習を振り返り、これからの学修において必要な内容をグループワークし学習意欲を高める。 3. 対象者機能調査票をもとに症例検討を行い、対象者の生活における課題と身体的問題を考察する。

評価方法

提出課題（70％） 実習生評価記録（30％）

教科書

特になし

参考図書・文献

特になし

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

学内での学修に励み、別に発行される「臨地実習・地域理学療法導入実習のしおり」を熟読したうえで望んでください。